

4月の災害教訓カレンダー

日	災害	教訓
1	1989年 新三種混合(MMR)ワクチン導入一接種禍事件 導入後8か月間で、217人に1人の割合で無菌性髄膜炎に感染していることが判明。中止されるまでの4年間で、被害は死者5名を含む、1762名。	
2	1930年 わかと丸転覆事件 若松市のえびす祭りの参拝客などで定員を超過していたが、船体を左舷に傾斜させたまま出港し、波浪の影響で転覆。死者72名。	
3	1872年 東京銀座明治の大火 被害は各省官邸13か所、官員の邸宅34か所、諸侯藩邸6か所、寺院58か所、町家41か町4879戸、8名死亡、1万9872名が被災した。	東京府下の家屋を石造(煉瓦建築など)にし不燃化するよう東京府に指令し、現在の繁華街・銀座通りの原型が誕生することになる。
4	1926年 小樽及び室蘭沖で漁船集団遭難 暴風雪により遭難。行方不明者は、小樽で28名、室蘭で80名。	
5	1946年 引揚船でコレラまん延 終戦後海外からの引揚で、浦賀湾に入港予定の船からコレラ患者が発生。乗船者全員の陰性が確認されるまで上陸が許可されず、4月27日には20隻、約10万 명이上陸できず病氣と飢えに苦しんだ。	
6	1941年 四高ボート琵琶湖遭難事故 ボート部の合宿中、大学生11名が琵琶湖で遭難、全員が亡くなった。原因は琵琶湖地方特有の突風によるものとされている。	
7	1910年 神戸港外だるま船ダイナマイト爆発 爆発しただるま船は火薬ゼリグナイト2300個、ダイナマイト3904個、雷管50個を積載しており、2人の乗組員と共に3艘のだるま船を道連れに爆発焼亡した。ある資料には爆風で2万戸の家屋に損傷を与えたとある。	
8	1970年 大阪天六地下鉄工事現場ガス爆発事故 地下鉄谷町線延長工事現場で、ガス管よりガスが噴出。地下に充滿していたガスが大爆発を起こし、死者79名、負傷者420名。	
9	1952年 日本航空もく星号墜落事故 羽田空港離陸20分後消息を絶った。伊豆大島三原山火口近くに激突し散乱した姿で発見され、乗客、乗員37名全員死亡。	
10		
11		
12	1957年 第五北川丸沈没事故 広島県生口島を定員の3倍を超える乗客を乗せ出航。暗礁に座礁し転覆。死者113名。	
13	1766年 福井明和3年の大火 総計2637軒、ほかに蔵137棟、寺院43か所が焼失している。17名死亡。	
14	1724年 妙知焼 大阪最大の大火。全市の7割から8割、430余町、約2万8000戸、土蔵2800棟が焼失し、死亡者3万人と伝えられている。	
15	1910年 第六号潜水艇沈没事故 潜航実験の訓練中、換気をする通風筒から海水が侵入。配電盤が冠水し、上昇のための動力を失い海底に沈没し、佐久間艇長以下乗組員14人全員が殉職した。	
16	1955年 テキサスシティ大災害(アメリカ) 船舶の火災により、積荷の硝酸アンモニウムが引火、爆発を起こした。死者581名、負傷者5000名以上。	
17	1952年 鳥取昭和の大火 延焼した距離6km、被災家屋5288戸(7240棟)、被災面積1.6平方km、2人死亡、被災人員2万451人。	火災後、消防庁長官から大火対策について異例の通達が出され、翌月には「耐火建築促進法」が制定された。
18	1987年 薬害肝炎事件 血液凝固因子製剤投与によるC型肝炎の感染被害。推定肝炎感染数1万人以上と試算している。この日初めて新聞で報道された。	
19	1778年 越前三国湊安永7年の大火 北の方を一部残しただけで、総数1283軒を焼失、全体の9割以上が焦土と化した。(現坂井市)	
20	1926年 日本海沿岸地方漁船集団遭難 暴風雨のため、現・舞鶴市、高浜町の漁船合わせて116隻、乗組員300余名が行方不明となった。	
21	1935年 台中地震(台湾) 当時日本が統治していた台湾中西部でマグニチュード7.1の内陸型地震が発生。279名死亡、1万1976名負傷。	
22	1974年 パンアメリカン航空812便墜落事故(インドネシア) バリ島デンパサール空港に着陸する寸前、メセヘ山の山腹の密林に墜落した。死者107名、うち日本人29名。	
23	1945年 玉栄丸爆発事故 鳥取県現・境港市で、爆薬の積み下ろし作業中であった玉栄丸が爆発。近くの火薬倉庫に引火、大爆発を誘発した。死者115名。	
24	1951年 桜木町事故 電車の集電装置に、工事用の架線がからまりショートして発火。1両目が全焼、2両目が半焼した。死者106名。	自動扉つきの客車内には乗降扉非常圧搾空気開放の設置と表示が義務化され、緊急時にドアを乗客が手動で開けられるよう法令が改正された。
25	2005年 JR福知山線脱線事故 カーブで速度オーバー、ブレーキも遅れたため脱線。1.2両目は線路からわずか6mのマッシュンに激突。死者107名。	
26	1880年 横浜地震 マグニチュード5.5~6の小さな地震。死者2名。多数の煙突が倒壊したり破損した。	この地震が地震になれないお雇い外国人教師を驚かせ、地震に関する学会の設立を提唱し、日本地震学会が創立された。
27	1971年 呉市林野火災 たたき火の火が枯れ草に燃え移り火災。1900人あまりが消火活動にあたり、市街地への延焼は食い止めたが18人の消防職員が殉職した。	
28	1919年 埋地の大火 被災家屋3248戸、被災者2万3000人余、焼失面積5万余坪(0.17平方km余)、翁町、扇町、寿町が全焼。	
29	1912年 北炭夕張炭鉱ガス爆発事故 炭じん爆発と推測されている。入坑中の坑夫を含め269名死亡。	
30	1886年 依屋火事 秋田最大の大火。被害は、秋田町、八橋村、寺内村合計民家3554戸、寺院61か所、神社19か所が焼失。死者17名。	